

## 飼料用米を活用したバークシャー種肥育後期用配合飼料における収益性

### 【1 成果概要】

- (1) バークシャー種の肥育後期用配合飼料に含まれる穀類とふすまを飼料用米（粳米30%＋玄米47%）に代替（表1）すると、肥育後期飼料と比較して一日当たりの増体は良好で、背脂肪厚も厚くなりません（表2）。
- (2) 皮下脂肪内層の脂肪酸組成は飼料用米の代替により、オレイン酸割合が高く、リノール酸割合が低くなります（表3）。
- (3) 肥育後期（体重75～115kg）の収益性を試算すると、飼料用米の代替により、飼料費を節減することができ、4,500円程度の増収が期待できます（表4）。

表1 試験区分及び飼料成分

区分	頭数	飼料配合割合	TDN(%)	CP(%)
対照区	9頭	穀類65%（トウモロコシ、玄米、マロ、大麦、キャッサバミール） そうこう類20%（ふすま、米ぬか）、植物性油かす類11%、その他4%	71	12.5
試験区	10頭	破碎粳米30%、破碎玄米47%、米ぬか10%、植物油かす類11%、その他2%	71	12.5

表2 発育成績・枝肉形質

	対照区(n=9)	試験区(n=10)
開始日齢(日)	151.9 ± 6.7	152.0 ± 6.3
開始体重(kg)	73.8 ± 2.0 a	76.7 ± 3.2 b
終了日齢(日)	202.7 ± 7.3	203.0 ± 7.0
終了体重(kg)	111.6 ± 5.1 A	119.6 ± 4.4 B
一日平均増体重(g/日)	741.9 ± 101.0 a	840.1 ± 84.6 b
日飼料摂取量(kg/頭)	3.7 ± 0.2	4.0 ± 0.1
飼料要求率	5.0 ± 0.8	4.7 ± 0.1
枝肉重量(kg)	71.9 ± 3.9 A	77.4 ± 3.6 B
枝肉割合(%)	64.4 ± 1.2	64.7 ± 1.2
背脂肪厚(cm)	3.4 ± 1.0	3.6 ± 0.7

※平均±標準偏差

※※異符号間に有意差有り AB(P<0.01) ab(P<0.05)

表3 皮下脂肪内層の脂肪酸組成及び融点

	対照区(n=9)	試験区(n=10)
オレイン酸(%)	41.7 ± 1.4 a	43.2 ± 0.9 b
リノール酸(%)	7.4 ± 0.4 a	6.4 ± 1.0 b
飽和脂肪酸(%)	45.6 ± 1.4	45.2 ± 1.2
不飽和脂肪酸(%)	54.4 ± 1.4	54.8 ± 1.2
不飽和度	1.2 ± 0.1	1.2 ± 0.1
融点(°C)	41.6 ± 1.0	41.8 ± 0.9

※平均±標準偏差

※※異符号間に有意差有り ab(P<0.05)

表4 肥育後期における収益性の試算

試験区分	枝肉格付(頭)		推定枝肉重量(kg)	枝肉単価(円/kg)	枝肉価格A(円/頭)	肥育後期飼料費(75～115kg)			収益性(円) A-B	収益差額
	上	中並				単価(円/kg)	採食量(kg)	飼料費B(円)		
対照区	5	4	74.0	633	46,873	53.15	205.5	10,925	35,948(100%)	—
試験区	5	5	74.4	630	46,840	33.85	190.1	6,435	40,405(112%)	4,457

※枝肉価格は、格付上中並を660円/kg、等外を600円/kgとして算出しています。

※飼料単価は、試験区飼料は玄米30円/kg、粳米20円/kg、基礎飼料58.45円/kgとして算出しています。

※破碎作業労賃として、別途飼料1kg当たり0.42円程度が見込まれます。

### 【2 留意事項】

- (1) 飼料用米は県内産を利用し、破碎機0.2mmのローラー幅で破碎して混合しています。
- (2) 今回の試験は、実証農家実施しています。去勢豚5頭1セット（2回）として、試験開始前に群編成し、群飼（オールイン・オールアウト）・不断給餌・自由飲水の条件下で実施しています。
- (3) 収益性の試算は、体重75kgから115kgまで肥育した場合で試算しています。

担当研究室 畜産研究所 家畜育種研究室

〒020-0605

滝沢市砂込 737-1

TEL. 019-688-4328

FAX. 091-688-4327